

YIA 会員だより 2023年1月号

発行；吉野川市国際交流協会・広報部(Tel22-2271,Fax22-2270)
第217号 ホームページ URL <https://yia2020.net/>



【1月以降の活動予定他】

もちつき大会 日時：1月22日(日) 8:30～
場所：西麻植青年会館

多文化共生交流会（外国人との交流会です）

日時：2月19日(日) 13:30～
場所：文化研修センター

◆年頭のご挨拶

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

萩森 健治



原井市長と対談

2022年も新型コロナウイルスの感染拡大が続きましたが、慎重に感染防止対策をしながら、皆様のご協力を得て活動を継続することができました。

3月に吉野川市の原井市長と対談し、その様子は「市長としゃべらんで」と題して市の広報誌に掲載されました。また、3月に徳島県から「とくしまユニバーサルデザインによるまちづくり賞」を受賞。春は梅や桜のお花見、5月に対面式の総会、6月は初めて俳句に挑戦し「俳句・書道ワークショップ」、7月は「日本語スピーチコンテスト」の実施と「徳島県日本語弁論大会」への5年連続出場、10月は「浴衣・着物着付け体験会」、11月に「神戸バスツアー」、12月は「クリスマス会」を開催することができました。しかし新年の「もちつき大会」、8月の「阿波踊り」は残念ながら中止せざるを得ませんでした。

2023年ですが新年早々に4年ぶりに「もちつき大会」を行います。また2月にはYIA 創立30周年を記念して「多文化共生交流会」を開催します。今年も、会員の皆様のあたたかいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◆国際理解講座に参加して！

大塚 貴司

12月17日の国際理解講座に参加させていただきました。外国人実習生と日本語教室についての講演でした。私の会社でもベトナムからの実習生がいて特に女性が多いので気になったのですが、妊娠したら解雇、帰国と実習生へのパワハラ、セクハラと言う事です。

ある資料で読んだのですが、実習生の4人に1人が母国の送り出し機関、受け入れ管理団体から73.8%の実習生が、妊娠したら解雇、帰国と言われたそうです。

送り出し機関から妊娠したら仕事を辞め帰国と言う契約を結んだ事のある実習生も5.2%あるらしいです。



それと今の日本は、高齢化社会、人材不足もあり、技能実習生、特定技能生がいないと、仕事が回らない企業も沢山あると思います。コロナもあり実習生の減少もありましたが、今はだんだん実習生も増えて来ている様です。企業もどれだけ日本(徳島県)の力になっているか、わかってもらいたいです。その他いろいろ話を聞いて思った事ですが、送り出し機関、管理団体、受け入れ企業への適切な改善が必要だと思いました。

次に日本語教室ですが、日本で働くには日本人との交流、会社でのコミュニケーションで日本語は必要です。簡単な会話からもっとレベルの高い日本語能力試験といろいろな受講生がいると思います。受講生の自分の今やりたい事に合わせ指導したり、勉強だけでなく、たまには息抜きでみんなで近場に遊びに行ったり、

地域のひととの交流イベントをしたりとか受講生の日頃の癒しの場になればなど私は思っています。

上記にもありますが、困った事、相談したい事の相談窓口として日本語講師にいろいろ相談して欲しいと思います。

今回、国際理解講座の講演聞かせてもらい、いろいろ勉強になりました。ありがとうございました。



◆冷たい雪の中に温かいクリスマス会 三木 ハン

毎年今の時期に吉野川市国際交流協会 (YIA) でクリスマス会を行っています。

日本の技術を学ぶため技能実習生として入国した男女18人。中には高校を卒業したばかりの18歳、19歳もいて、彼らは夢を抱いて日本に来ました。私は彼らの日本での生活面の担当で、一緒に買い物したり、講習に同行したりしました。もっと日本文化にもふれあいできたらいいと思いながら、YIAの会長先生にクリスマス会に参加したいと連絡し許可されました。



当日は朝から雪まじりの雨が降りました。この天気では行けないと心配しましたが、皆の願いがかない昼から天気はだんだん良くなり吉野川市文化研修センターに無事に行くことができました。コロナ禍の生活のためクリスマス

会も静かに行われました。会長先生は毎週日曜日に日本語を教える以外、春には花見、夏には渦潮観光、秋にバス旅行、冬にお餅大会の一年間の活動の記録写真を見せながら話を聞かせてくれました。休憩時間になり、インドネシアから持って来てくれたお菓子和先生方が準



備くれたお菓子を食べたり、コーヒーを飲んだり楽しい時間でした。会場に戻って、自分のことを紹介しながら話したり、

笑ったりしました。先生方はじめ日本のクリスマスの歌を歌ってそれからベトナム人、フィリピン人、インドネシア人、皆は自分の国の歌を歌う。性別、出身、宗教関係なく、この会場中に人と人の心から心まで自分の国、そして日本への愛が繋がる。会場の窓の外では雪が降り出しました。大雪が降って、皆は喜んで写真を撮ったり雪の中で遊んだりしました。誰かが赤い鼻を持っているトナカイさんのお話しました。日本語がまだ分からないからもう一度母国語で話しました。やはり文化のふれあいがあって、興味が生まれました。



◆「茶と菓の集い」に飛入り参加

萩森 健治

日本語教室の受講生がお世話になっている茶道の先生にお招きいただき、12月25日の「茶と菓の集い」のクリスマス茶会に参加しました。参加者は、佐藤先生ご夫妻、ベトナム実習生2名、TOPIAの長田さん、それに飛び入り参加した私の計6名。

まず、チンさんが亭主となり薄茶のお点前を披露。次はフィエンさんが亭主。二人とも緊張しながら、美味しいお茶をたててくれました。抹茶茶碗は、クリスマス用にトナカイや雪の結晶が描いてある京焼を佐藤さんが用意してくださいました。そのあと、みんなで和菓子を手作り。クリスマス・ツリーをイメージした和菓子です。お茶会が終わってから、ベトナム実習生が作ったミーサオ(ベトナムの焼きそば)をみんなで食べ、プレゼントをいただいて解散しました。

